

佐野市景況レポート

平成26年10～12月期



佐野商工会議所

〒327-0027 佐野市大和町 2687-1

TEL 0283 (22) 5511 FAX 0283 (22) 5517

HP <http://www.sanocci.or.jp>

E-mail s-cci@sanocci.or.jp

調査協力：佐野市あそ商工会

佐野市景況調査報告

(平成26年10～12月期)

佐野市内の建設業・製造業・商業・飲食店・サービス業290社を対象に調査し、198社(回答率68.2%)から回答がありましたものを取りまとめたものです。

《 概 況 》

円安等の影響より先行きに不透明感

昨年、渋谷区にある「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」という名の真っ暗闇のソーシャルエンターテイメント施設を体験した。参加者は完全に光を遮断した空間の中へグループを組んで入り、視覚障がい者(全盲)のサポートのもと、暗闇の中を探検し様々なシーンを体験していく。入場前に、白杖の使い方や注意事項等の説明があったが、暗闇と言ってもかすかに見えるものと思込んでいた。入場すると完全な暗闇で全く見えない、不安で動揺したが、視覚障がい者の頼もしいサポートにより、徐々に平静を保てるようになり、水の音、畳の感触、コーヒーの美味しさが新鮮に感じられるようになった。暗闇の中では、視覚以外の五感が冴え、身体全体で感じることで、頭で考えること以上のいろいろなことが「見え」(本質)てくるようだ。五感を研ぎ澄ますと、何が大切で、何が必要でないかを選別できるような気がした。

さて、日銀短観(平成26年12月調査)では、大企業の業況判断DI指数14(前期比+1)、中小企業の業況判断DI指数0(前期比0)と、大企業は比較的高い指数を維持しているが、中小企業は変わらず低調である。先行きは、大企業は12(前期比▲2)、中小企業は▲4(前期比▲4)と中小企業は悪化を見込んでいる。

佐野市景況レポート(平成26年10～12月期)は、全業種業況DI指数▲15.5、前期(7～9月期)比▲1.4ポイントの業況悪化となった。利益DI指数は▲34.4、前期比▲6.9と2期連続の大幅悪化となった。また、売上高DI指数は▲19.8、前期比▲5.5と悪化幅が大きく、販売価格DI指数は▲9.5、前期比▲5.4と販売価格の低下が要因と言える。

今後3ヶ月間(平成27年1～3月見通し)の全業種業況DI指数は、▲21.4、前期比▲12.7と大幅な悪化を見込んでいる。これは、予想売上高DI指数は▲22.6、前期比▲18.7と大幅悪化を見込むことによるもので、販売数量の大幅減を見込んでいるようである。

円安影響の調査結果は、①大幅なプラス影響：12%、②若干のプラス影響：7%、③影響ない：32%、④若干のマイナス影響：38%、⑤大幅なマイナス影響：11%と、「若干のマイナス影響」が最も多い。また、調査結果をウエイト付けした全体評価ポイントは▲29と、調査企業全体では円安による若干のマイナス影響があると判断できる。

景気に関する市内事業所のコメントをみると、製造業はやや厳しい、非製造業(小売・飲食・サービス業)は厳しいコメントが多い。非製造業の不況感、消費増税と円安の影響を大きく受けているものと思われる。今後、円安はどうなるかわからないが、消費増税については、国の財政状況より増税が避けられないことから、今後、増税を想定した対応が必要となる。

調査協力：OKコンサルティング 代表 岡野 清(中小企業診断士)

☆ 業況について

全業種 DI 指数 ▲15.5、前期比 1.4 ポイント悪化

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 30.0 ポイント、②飲食店 11.5 ポイント、③設備業 5.3 ポイント、
- ④建設業及びサービス業 0.0 ポイント

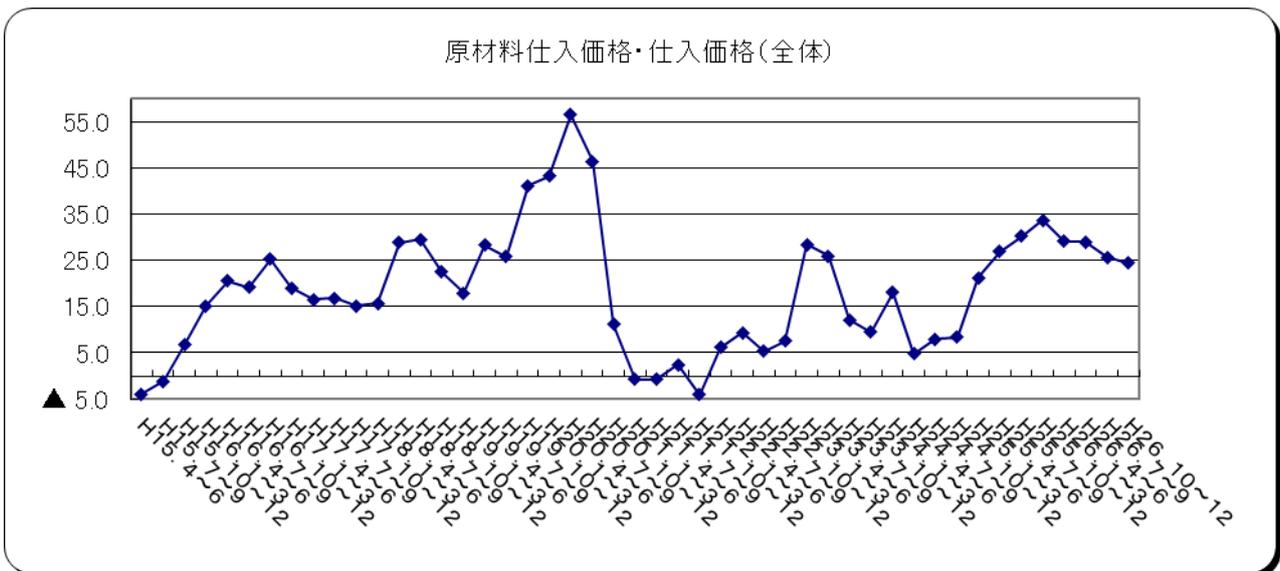


☆ 原材料仕入価格・仕入価格について

全業種 DI 指数 24.4、前期比 1.3 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 66.7 ポイント、②食品製造業 62.3 ポイント、③繊維品製造業 54.5 ポイント、④飲食店 33.3 ポイント、⑤卸売業及びその他の小売業（大型店含む） 23.1 ポイント



☆ 売上高について

全業種 DI 指数 ▲19.8、前期比 5.5 ポイント減少

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①その他の製造業 15.8 ポイント、②飲食店 5.7 ポイント、③設備業 5.5 ポイント、
- ④建設業及び食品製造業 0.0 ポイント

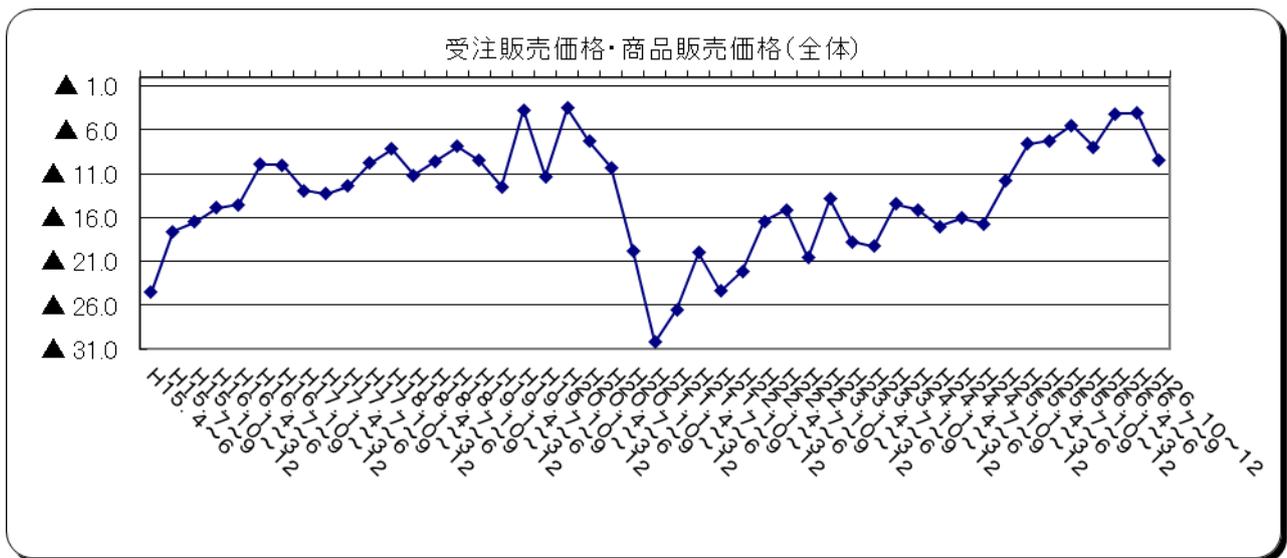


☆ 受注販売価格・商品販売価格について

全業種 DI 指数▲9.5、前期 5.4 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①小売業（飲・食料品）7.0 ポイント、②建設業 6.7 ポイント、③飲食店 5.1 ポイント、④その他の製造業 0.0 ポイント、⑤サービス業▲5.7 ポイント



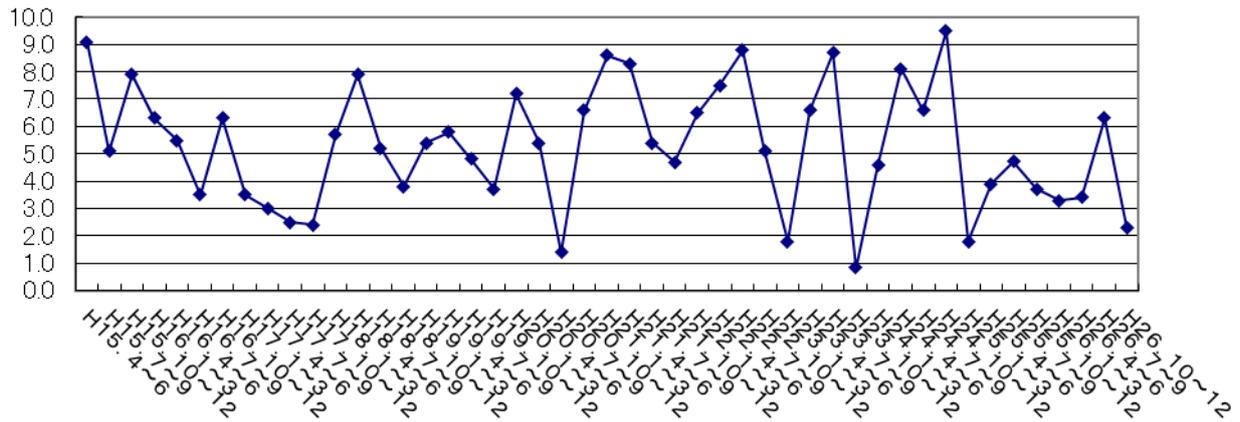
☆ 製品（材料）在庫・商品在庫について

全業種 DI 指数 2.3、前期比 4.0 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①小売業（飲・食料品）14.3 ポイント、②その他の製造業 13.0 ポイント、③機械・金属製造業 10.6 ポイント、④設備業及び飲食店 5.1 ポイント

製品(材料)・商品在庫(全体)



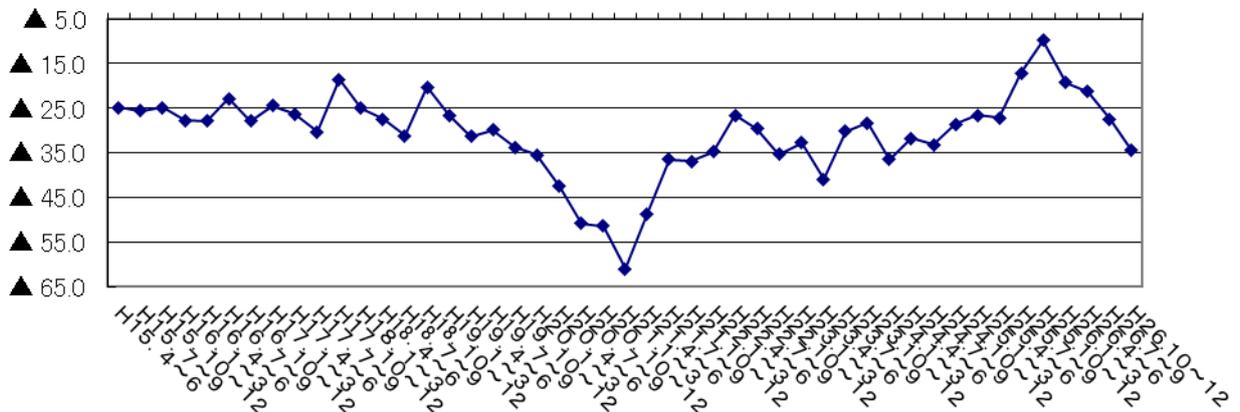
☆ 利益状況について

全業種 DI 指数▲34.4、前期比 6.9 ポイント減少

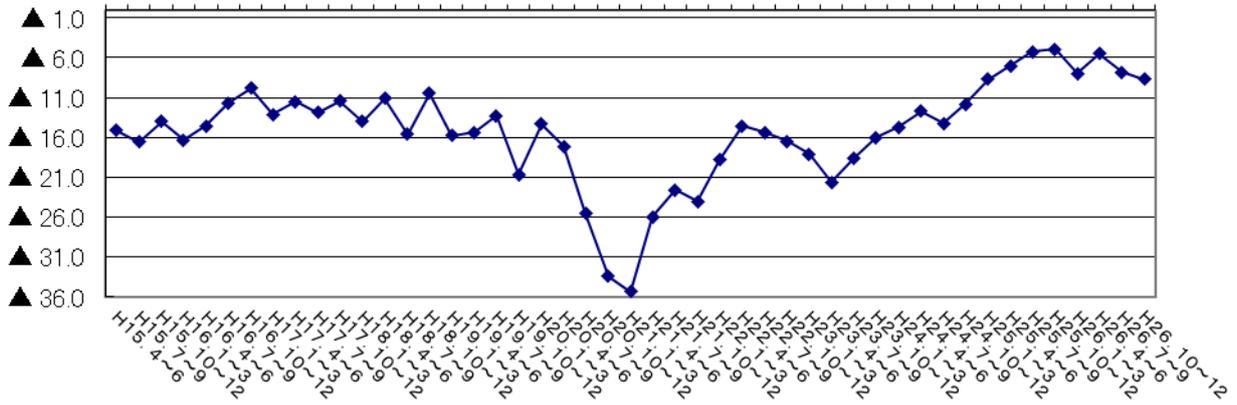
業種別 DI 指数 (上位 5 業種)

- ①設備業及び飲食店▲22.2 ポイント、③機械・金属製造業及び小売業 (飲・食料品)▲23.1 ポイント、⑤その他の製造業▲30.0 ポイント

利益状況(全体)



資金繰り(全体)



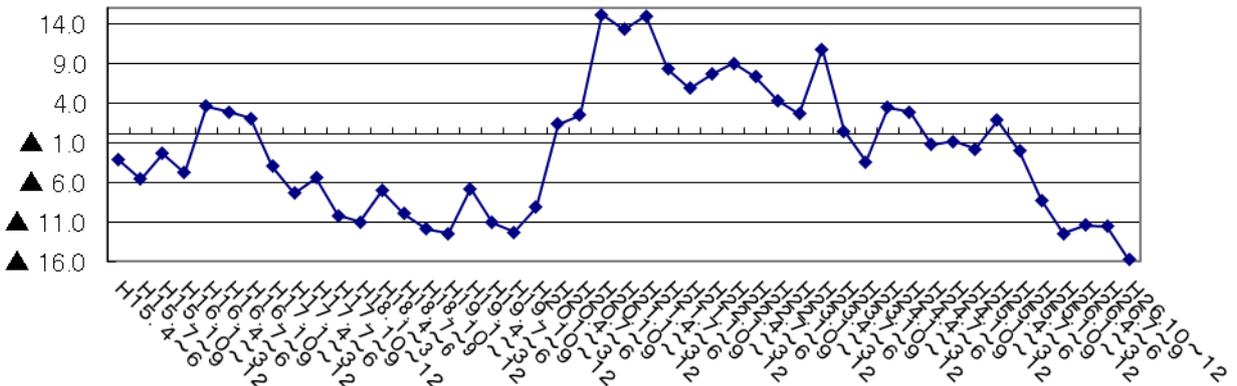
☆ 労働力について

全業種 DI 指数▲15.8、前期比 4.2 ポイント低下

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①繊維品製造業及びその他の小売店（大型店含む）0.0 ポイント、③飲食店▲10.3 ポイント、④化学・プラスチック製造業及びその他の製造業▲13.0 ポイント

労働力(全体)



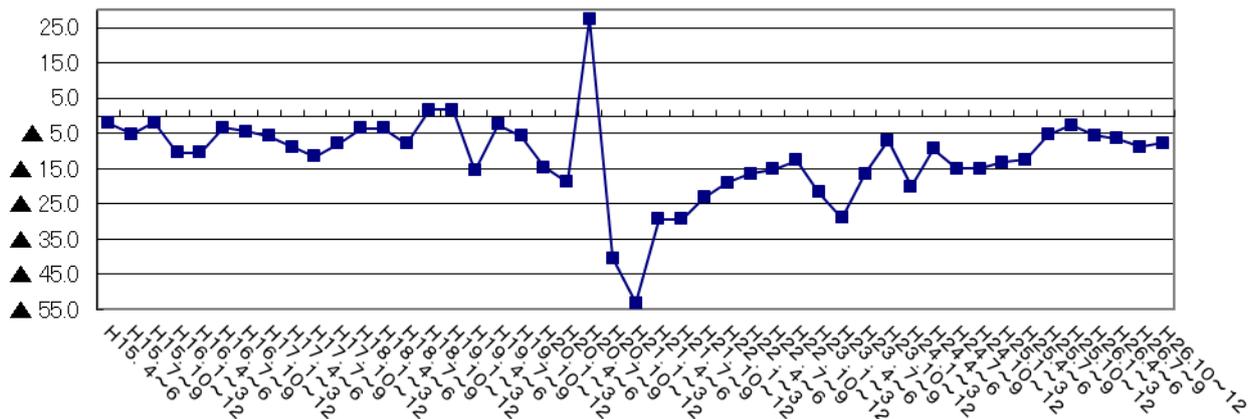
☆ 設備稼働率について（建設・設備・製造業関係）

全業種 DI 指数▲7.7、前期比 1.1 ポイント増加

業種別 DI 指数（上位 5 業種）

- ①食品製造業及びその他の製造業 0.0 ポイント、③設備業▲5.1 ポイント、④建設業▲13.0 ポイント⑤化学・プラスチック製造業▲13.4 ポイント

設備稼働率(建設・設備・製造業)



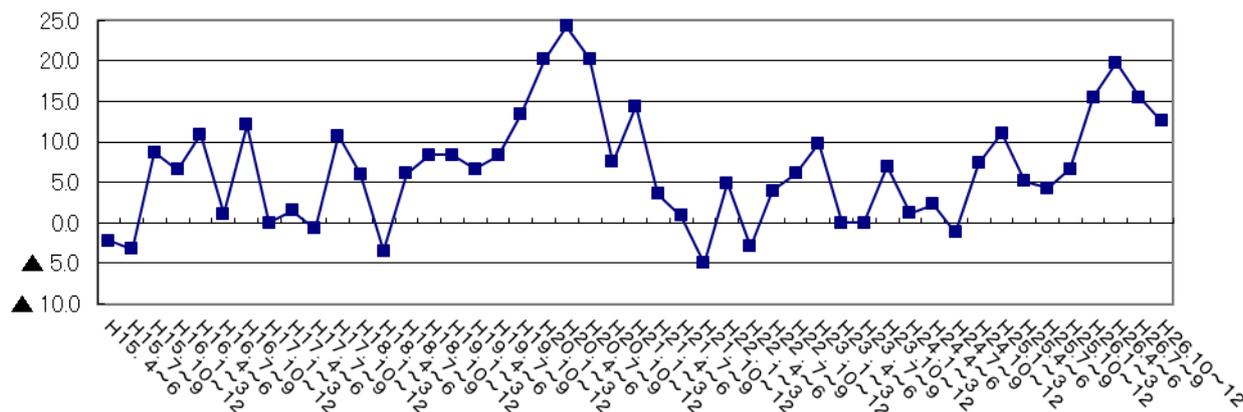
☆ 販売経費について (商業・サービス業関係)

全業種 DI 指数 12.6、前期比 2.9 ポイント減少

業種別 DI 指数 (上位 5 業種)

①飲食店 33.3 ポイント、②小売業 (飲・食料品) 22.0 ポイント、③サービス業 5.7 ポイント、④その他小売業 (大型店含む) 4.8 ポイント、⑤卸売業▲11.1 ポイント

販売経費(商業・サービス業)



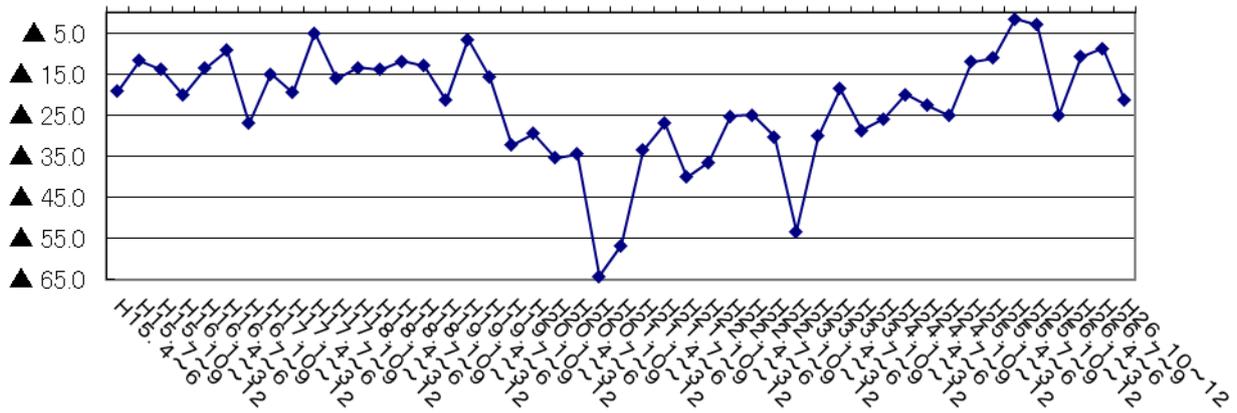
☆ 今後 3 ヶ月間 (平成 27 年 1~3 月期の見通し) の業況について

全業種 DI 指数▲21.4、前期比 12.7 ポイント悪化

業種別 DI 指数 (上位 5 業種)

①その他の製造業 14.3 ポイント、②小売業 (飲・食料品) 0.0 ポイント、③繊維品製造業▲6.1 ポイント、④建設業▲7.0 ポイント、⑤機械・金属製造業▲19.5 ポイント

業況予想(全体)



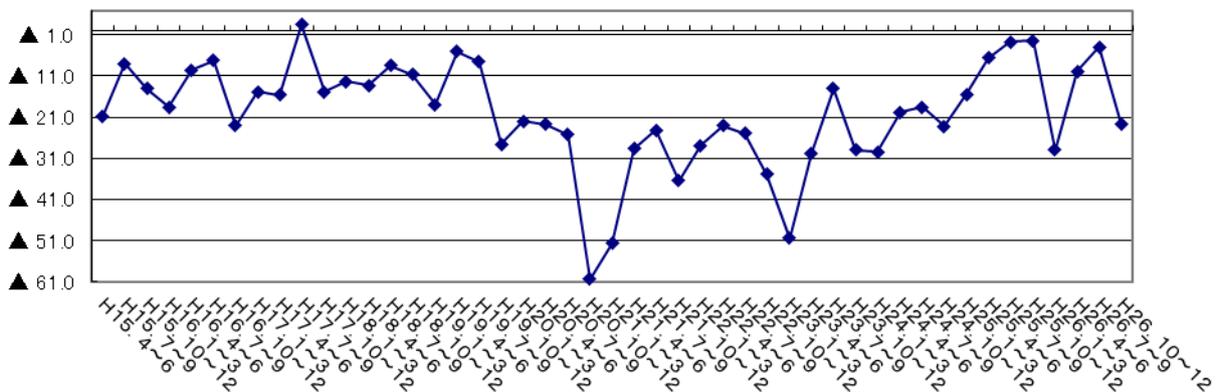
☆ 今後3ヶ月間(平成27年1~3月期の見通し)の売上高について

全業種DI指数▲22.6、前期比18.7ポイント減少

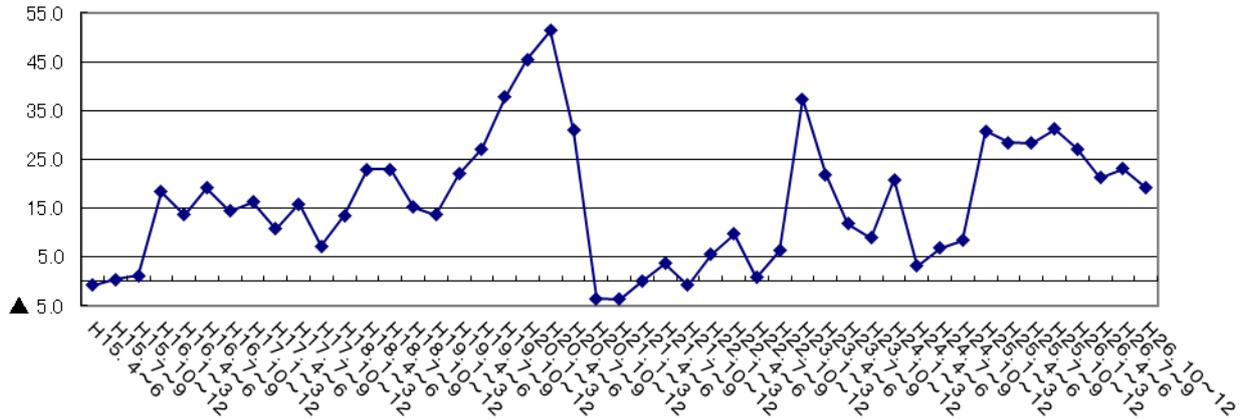
業種別DI指数(上位5業種)

- ①その他の製造業 42.9ポイント、②小売業(飲・食料品) ▲7.3ポイント、③機械・金属製造業▲11.7ポイント、④繊維品製造業▲19.1ポイント、⑤サービス業▲25.0ポイント

売上高予想(全体)



原材料仕入価格・仕入価格予想(全体)



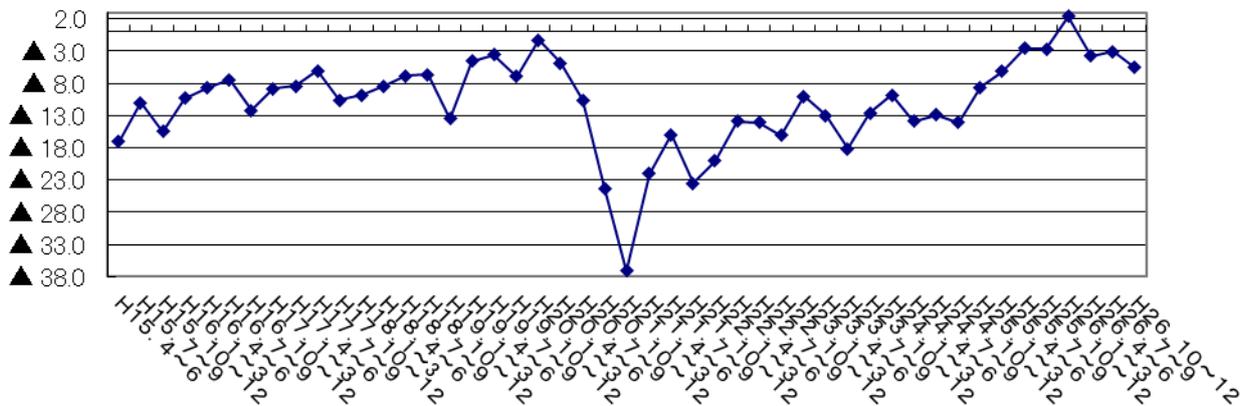
☆ 今後3ヶ月間(平成27年1~3月期の見通し)の受注販売価格・商品販売価格について

全業種DI指数▲5.6、前期比2.5ポイント減少

業種別DI指数(上位5業種)

- ①その他の製造業 27.3ポイント、②建設業 13.0ポイント、③食品製造業及び小売業(飲・食料品)・飲食店 0.0ポイント

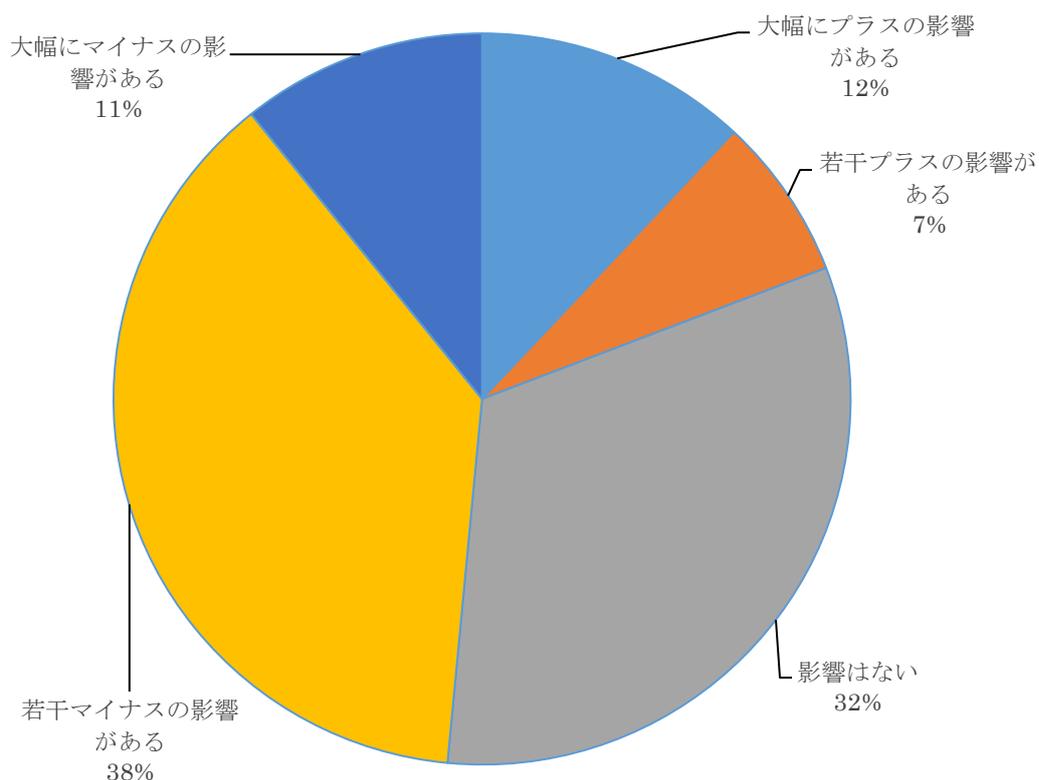
受注販売価格・商品販売価格予想(全体)



☆ 昨今の為替(円安)がもたらす自社への影響(売上・収益・経費等)について

為替(円安)がもたらす自社への影響について	平成26年10-12月期 調べ(%)	評価ポイント
①大幅にプラスの影響がある (2ポイント)	12%	24
②若干プラスの影響がある (1ポイント)	7%	7
③影響はない (0ポイント)	32%	0
④若干マイナスの影響がある (-1ポイント)	38%	▲38
⑤大幅にマイナスの影響がある (-2ポイント)	11%	▲22
合計	100%	▲29

円安がもたらす自社への影響について



☆ 市内各事業所からの景況に関するコメント ☆

※景況調査にご協力いただきました事業所のうち、「景気に対するコメント欄」にご記入いただいた内容を、そのまま掲載しております。

建設業

- ・過日の衆院議員選挙結果、与党の圧勝に終わりました内閣に対し、尚一層の経済政策において景気の浮揚を計ってほしい。(特に地方の経済対策)

設備工事業

- ・管工事用の材料自体が輸入ですから、当然値上げはしますよね。だからダメみたいな気がするけど、円高の時は仕事が無くてダメでしたよね。本当どっちが良いのでしょうか？

繊維品製造業

- ・円安の影響で、輸入の原材料の価格が高騰している。今後、原料価格も高騰する事があると、大きなマイナスになる。
- ・原材料の一部輸入品の為、円安の影響が出ている。選挙後の経済の安定上向きに期待している。
- ・エネルギーの値下がり、メーカーには明るい材料ではあるが、増税後の消費低迷が予想以上に長引き、急激な円安が諸物価を押し上げ、市況は極めて悪い。
- ・円安がもたらす影響は原材料高騰と国内消費の低迷、そこへ消費税の 8%とダブルパンチで家計に大きく影響し、国民経済は一増苦しくなる。

食品製造業

- ・安倍首相の「経済が第一」の通り、これから己に激しく、気合いを入れて仕事に立ち向かわなければと思っています。
- ・地方への景気が好況するのはいつになるのでしょうか？目の前にある仕事をするだけで精一杯！！勝ち組、負け組がはっきりする 2015 年になると思います。しっかり、気を引き締めていかないとなりません。
- ・景気が良くなった感は全くないが、人件費だけは高騰し、人手不足となっている。
- ・円安の状況が続いているが、食品業界においては、原料仕入コストが上昇しており、利益が減少し経営を圧迫させています。

機械・金属製品製造業

- ・アベノミクスは大手企業ばかり利益があり、中小企業には届いていない。給料より食品の値上がりがおおきい。食料品には消費税をおさえてほしい。
- ・今まで好調だった太陽光発電関連が九電の新規受入れストップの発表を機に急ブレーキがかかった。その他、建築関連は多忙。行き過ぎる円安が不安材料。
- ・年末の忙しい時期に選挙！！何を考えているのでしょうか？A 元首相が「ほとんどの企業が黒字」と言っておりましたが…現実離れ集団の方に…何を支持して良いかわからず困ります。税金の「無駄使い」はやめて下さいと大声で言いたい毎日です。
- ・今後 3 カ月～稼働日数が減少→売上減が予想される。
- ・受注は減少していくものと見られる。
- ・震災復興需要が続く中、排出ガス規制代替需要や五輪開催決定を受けた首都圏再開発などにより、トラック需要は高水準に推移しています。
- ・円安がエネルギー問題を浮き彫りにし、原発再稼働に拍車がかかった。
- ・海外からの輸入に関しては円安が大きく影響しています。部材の値上がりもここに来て、申請する業者が増えてきています。製品単価に転嫁できずに苦慮しています。

化学・プラスチック製品製造業

- ・昨年より停滞。
- ・円安ではあるが、原油安の為、原料価格はやや下落している。
- ・前期の 8 月受注が悪かった為、当期比較では増加している。
- ・注文数がより小ロット。

その他の製造業

- ・円安の影響あり、合板、木材が高騰している。売上げは 1～3 月期は需要期なので増えると思う。為替の安定が良い。1 ドル＝100 円が良い。

卸売業

- ・消費増税以降、徐々に消費が落ちてきているように感じます。
- ・主要取扱いメーカーより値上げ価格改定の連絡が多数あり、価格交渉、コスト削減など対策が急務となる。

小売業（飲・食料品）

- ・資材。原材料等が12月・1月と値上げになり、たいへん困っています。値上った物が再び値下がるのがほとんどないのが現状です。どうしようかな。
- ・規制緩和で競争がおこり、結局値くずれになる。個人商店がやっていける時代ではなくなっているようだ。
- ・冬になると売上は上がる商品ですが、前年同月期と比較すると約15%以上の売上減になっております。消費税が8%になってから特に顕著です。
- ・クリスマスがあったので、売上は上昇しますが、原材料が値上がりしているため、利益率はダウンしてしまいました。

その他の小売業（大型店含む）

- ・1年後の10%の増税、消費者は更に買い控えすると思います。閉店も多くなるでしょう。
- ・当業種（時計・メガネ・貴金属等）は、問屋等に聞いても、各地区悪いみたいです。（過去3カ月特に）
- ・1～3月は季節的要因。（特に3月の年度末の需要が大）
- ・消費者数の減少により、売上も減少している。

飲食店

- ・今までに経験した事がないくらい非常に悪い状態です。
- ・円安の影響なのか、仕入価格の上昇が止まりません。
- ・他店に訪問して話を聞いてみても、円安の影響で仕入れ費が上がって困っている事は良く聞きます。販売価格を上げられない、景気が良くなってきていると聞くが、まったくそんなことは無いとのことです。
- ・仕入価格が大幅に上がり、利益が出ません。
- ・7、8、9月は売上が落ち込む時季ですので、今期は前期に比べて全体に良くなっています。
- ・売上高は少し増加しているが、仕入価格が高くなったので、利益増えない消費税の片棒かついでいるようなものに思えてくる。

サービス業

- ・生徒様が少なくなり、教室の運営が厳しいです。
- ・地価もまだ下げ止めならない上に、大手による土地開発が広がり、地元中小以下の売上げはなかなかあがらない。事業用施設、事務所、店舗等のニーズは出てきているようなので、そちらでやっていこうと思います。
- ・消費税を納める資金がありません。
- ・円安で生活物資が上がってしまって、生活が苦しくなるのではないのでしょうか！国会議員は名誉取なので手当をゼロにすべきである。そうすれば消費税も上げなくて世の中が潤います。

佐野市景況調査 要項

- 1 調査時期 平成26年10月～12月
- 2 調査業種 佐野市内に本支店を有する建設業・製造業・商業・サービス業・飲食店など290社（内訳：佐野商工会議所地区（旧佐野市）200社、佐野市あそ商工会地区（旧田沼町・旧葛生町）90社）を対象として実施した。

(1) 建設業

① 建設業	25社
② 設備工事業	21社

(2) 製造業

① 繊維品製造業	22社
② 食品製造業	18社
③ 機械・金属製品製造業	40社
④ 化学・プラスチック製品製造業	36社
⑤ その他の製造業	22社

(3) 商業・サービス業

① 卸売業	15社
② 小売業（飲・食料品）	23社
③ その他の小売業（大型店含む）	27社
④ 飲食店	19社
⑤ サービス業	22社

3 分析方法[景況動向指数（D I）による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で上限限度は、+100・-100となり、プラスは景況の好転、マイナスは景況の悪化をあらわしている。

D I 方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「良い」「増加」「騰貴」「過多」等の回答企業数

y：「普通」「ほぼ同様」「適正」の回答企業数

z：「悪い」「減少」「下落」「不足」等の回答企業数

- 4 主 管 佐野商工会議所
- 5 調査協力 佐野市あそ商工会
- 6 お問合先 佐野商工会議所経営支援課 TEL（代表）0283-22-5511

